

故郷の教会に壁画

行橋市出身、スペイン在住の画家九十九さん

あす創立50周年祭で披露

行橋市出身でスペイン

・バルセロナ在住の画家

九十九伸一さん(50)が、

市内門樋町の行橋カトリ

ック教会聖堂のステンド

グラスや壁画の装飾を完

成させた。従来の教会美

術のイメージとは違う現

代アート風の斬新な仕上

が。27日の創立50周

年祭で披露される。

聖堂の改装を考えてい

た山元眞・主任司祭(52)

が「聖堂の窓にステンド

グラスを入れた」と九

十九さんの知人に相談し

たのがきっかけ。一時帰

国していた03年12月に山

元さんと会って「教会は

自分と同一年。これも何

かの縁」と引き受けた。

スペインに戻り、半年

かけて「天使の時空」の

テーマで原画を制作。04

年8月、聖堂内5カ所に

ステンドグラスが取り付

けられた。しかし、これ

だけでは終わらなかった。

ミケランジェロの未完

の彫刻に想を得た油絵

「ロンダニーニのピエタ

(慈愛)」(120号)

と、対になる「聖霊降

臨」(120号)を今年

5月に飾り付けた。その

後、壁画の制作にとりか

かり、7月に左右の壁、

今月中旬に聖堂入り口上

の壁の絵を仕上げた。

壁画はやわらかな曲線

を中心に描かれ、「自然

界の恵み」「祈り」「福

音を伝えるための派遣

をテーマにした。

山元さんとの出会いが

ら約2年。スペインと日

本を4回往復して完成に

こぎつけた。まったくの

ボランティア。「キリス

ト教徒ではないので、教

義から勉強した」と振り

返った。

九十九さんは九州産業

大大学院などで美術を学

び、80年にイタリアで創

作活動を開始。86年、バ

ルセロナにアトリエを移

していた。

ワイド

きたきゅうしゅう



壁画などの完成を喜ぶ九十九さん(右)
〓行橋市門樋町の行橋カトリック教会で